育成 モノづくり人材 Vol. 96

岡山県立笠岡工業高校

地域課題解決、学びの宝庫

岡山県立笠岡工業高校の校訓は「誠実」。「誠実な人間でないと、いいモノはつくれない」（文谷元信校長）という考えからだ。地域貢献を目指した課題解決型学習（ＰＢＬ）によるモノづくりを通じた教育、地元企業と実践的なインターンシップ（就業体験）に取り組む。飛行ロボット（ドローン）の操作から測量、データ処理などを体系的に学ぶ授業を始めており、先端技術の教育にも積極的だ。

ＰＢＬは「笠工テクノ工房」と呼ばれ、地域の幼稚園、保育園、支援学校、小学校、公民館などを対象に、困り事や、あると便利なモノなどを募る。その上で生徒は、授業や部活動の一環としてモノを作製したり修理したりする。課題を発見する思考力、判断力、聞き取り、実際にモノを作って提案するなど、生徒にとって学びの宝庫。想定外の使われ方もあり、生徒はその対策を考えてモノづくりをする。

２０１７年度は小学校向けに縄跳び練習用の台、支援学校向けのパズルなどを作製した。文谷校長は「テクノ工房の贈呈式はわざと大々的にやる」という。生徒たちが作ったモノを受け取り、先方が喜んでいる様子見ると、役立てたという自信と自己肯定感につながるためだ。18年度は幼稚園の一輪車練習用の手すりと収納スタンド、ウサギ小屋へ出入りするための踏み台など15件に取り組む。

文谷校長

【ＤＡＴＡ】▷校長＝文谷元信氏▷所在地＝岡山県笠岡市▷学科構成＝電子機械科、電気情報科、環境土木科▷生徒数＝414人▷主要設備＝ＦＡ制御システム、３次元測定機、プログラマブルロジックコントローラー（ＰＬＣ）、マシニングセンター（MC）、レーザー加工機▷主な進路＝ＪＦＥスチール、安田工業、グリーンツール、ホーコス、両備ホールディングス、岡山理科大学、広島工業大学など

支援学校で行ったパズルの贈呈式

17年度は2年生が行う夏休みのインターンシップ後、2学期に月1回、合計4回、会社業務を経験させた。建設業の天野産業（岡山県笠岡市）で斜面の測量に挑戦。電気工事を手がける報国電設（同井原市）では、生徒が作業前日の夕方に会社へ行き、工程表を見ながら資材の準備、いわゆる〝段取り〟に取り組んだ。ただ、新たなインターンシップを経験できた生徒は3人。受け入れ企業の拡大が課題だ。

18年度から環境土木科の3年生を対象にドローンの仕組み、操作、関連法令、ドローンを用いた測量、データ処理まで体系的に学ぶ授業が始まった。「土木、建設の測量、工事完了後、建物の検査などで数年内に企業では必須になる」と予測。ドローンの学習は、生徒が就職後の強みになると見ている。

（福山支局長・水田武詞）

（金曜日に掲載）

無断転載・複写禁止 ㈱日刊工業新聞社